

60 分でわかる旧約聖書 (27) 「ダニエル書」

1. はじめに

(1) ダニエル書の位置づけ

- ①ヘブル語聖書では、第 2 区分の預言者には含まれていない。
- ②第 3 区分の諸書 (Writings) に含まれている。
- ③この書の中では、ダニエルは預言者と呼ばれていない。
- ④しかし、主イエスはダニエルを預言者と呼んでおられる。

Mat 24:15 それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、(読者はよく読み取るように。)

(2) 著者ダニエル

- ①同時代の預言者エゼキエルは、ダニエルを義人と呼んでいる。
 - * ノア、ダニエル、ヨブが並んで登場する (エゼ 14 : 14、20) 。
- ②エゼキエルは、ダニエルを知恵ある者として紹介している (エゼ 28 : 3) 。
- ③家族関係についてはほとんど知られていない。
 - * ユダ部族の属する貴族の生まれである (1 : 3、6) 。
 - * 心身ともに優れている (1 : 4) 。
- ④ネブカデネザルによって連行されたのは、前 605 年であった。
- ⑤ペルシヤの王クロスの第 3 年 (前 536 年) には、まだ生きていた (10 : 1) 。
- * 彼の活動は 70 年前後にも及んだ。

(3) ダニエル書の文学形式

- ①聖書の中の最初の黙示文学である。
 - * 黙示 = 「アポカリプシス」 (ギリシア語) = 「アポカリプス」 (英語)
 - * 覆いを取る、啓示などの意味がある。
 - * 聖書全体が神の啓示であるが、啓示の様態が特殊なものを黙示と呼ぶ。
- ②黙示文学の特徴
 - * 神の幻を見た者が、その内容を書き記す。
 - * 象徴 (シンボル) やしるし (サイン) が、多用される。
 - * 通常は、神の民イスラエルの将来に関する啓示である。
 - * 他の預言書では韻文が用いられるが、黙示文学では散文が用いられる。
- ③他の黙示文学
 - * エゼ 37~48
 - * ゼカ 1 : 7~7 : 8
 - * 黙示録

④黙示文学の解釈

- *主観的解釈を慎む。
- *聖書が聖書を解釈するという原則を常に意識する。
- *厳密な聖書研究をしなければ、黙示文学の解釈は不可能である。

(4) ダニエル書の言語

- ①1 : 1~2 : 4a は、ヘブル語で書かれている。
- ②2 : 4b~7 : 28 は、アラム語で書かれている。
- ③8~12 章は、ヘブル語で書かれている。
- ④その理由
 - *ヘブル語は、契約の民イスラエルの言語である。
 - *アラム語は、当時の共通語である（異邦人の言語）。
 - *ダニエル書には、2つの強調点がある。
 - *異邦人諸国に対する神の計画（アラム語で書かれている）
 - *契約の民イスラエルに対する神の計画（ヘブル語で書かれている）

2. アウトライン

(1) ダニエル書の要約

- ①1 章 : バビロン捕囚
- ②2~4 章 : 巨大な像の幻
- ③5~7 章 : 壁に書かれた文字
- ④8~12 章 : 将来の御国の幻

(2) ダニエル書の目的

- ①献身の勧め
- ②異邦人諸国に対する神の主権
- ③契約の民に対する神の忠実さ

ダニエル書の内容について学ぶ。

I. ダニエル書の要約

1. 1 章 : バビロン捕囚

(1) バビロン軍によるエルサレム征服

- ①ユダの王エホヤキムの第 3 年、ネブカデネザルが神殿を略奪した。
- ②王は、王族か貴族の少年を数人選んでバビロンに連行した。
- ③その中に、ダニエルと 3 人の友人たちが含まれていた。

Dan 1:7 宦官の長は彼らにほかの名をつけ、ダニエルにはベルテシャツアル、ハナヌヤにはシャデラク、ミシャエルにはメシャク、アザルヤにはアベデ・ネゴと名をつけた。

- (2) 少年たちは、汚れを避けるために、王が提供するごちそうを食べなかった。
 - ①彼らは、ベジタリアンになった（主食は穀物である）。
 - ②その結果、王のごちそうを食べる少年たちよりも、顔色がよくなった。

- (3) 彼らは、神の助けによって、王の宮廷で仕えることになった。

Dan 1:19 王が彼らと話してみると、みなのうちでだれもダニエル、ハナヌヤ、ミシャエル、アザルヤに並ぶ者はなかった。そこで彼らは王に仕えることになった。

Dan 1:20 王が彼らに尋ねてみると、知恵と悟りのあらゆる面で、彼らは国中のどんな呪法師、呪文師よりも十倍もまさっているということがわかった。

2. 2～4 章：巨大な像の幻

- (1) ネブカデネザルは、巨大な像の夢を見た（2 章）。
 - ①ダニエルだけがそれを言い当て、解き明かしをすることができた。
 - ②この像は、将来起こる異邦人の帝国を預言したものであった。

- (2) ネブカデネザルは、自分の像を作り、それを拝むように命じた（3 章）。
 - ①シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴは、それを拒否した。
 - ②彼らは、7 倍熱くした炉の中に投げ込まれた。
 - ③炉の中に第 4 の者が現れ、彼らを守った。

- (3) 神は、ネブカデネザルの傲慢を裁かれた（4 章）。
 - ①ネブカデネザルは、獣のようになった。

Dan 4:33 このことばは、ただちにネブカデネザルの上に成就した。彼は人間の中から追い出され、牛のように草を食べ、そのからだは天の露にぬれて、ついに、彼の髪の毛は鷲の羽のようになり、爪は鳥の爪のようになった。

- ②正気に戻ったとき、神をほめたたえた。

3. 5～7 章：壁に書かれた文字

- (1) ネブカデネザルの息子ベルシャツアルは、エルサレムの神殿から略奪してきた器を、宴会のために用いた（5 章）。
 - ①突然、人間の指が現れ、宮廷の壁に文字を書いた。
 - ②それは神からの裁きのメッセージであった。
 - ③ダニエルだけが、その文字を読み解くことができた。

④ベルシャツアルは殺され、メディヤ人ダリヨスがその国を受け継いだ。

(2) ダニエルは、ダリヨス王に祈願するように命じられた (6 章)。

①ダニエルは真の神に祈ったので、獅子の穴に投げ込まれた。

②王は、愚かな禁令を制定したことを悔いた。

③ダニエルは、天使によって守られた。

(3) ダニエルは、4 頭の獣の幻を見た (7 章)。

①バビロン、メド・ペルシヤ、ギリシア、帝国主義の国 (ローマ)

②「人の子のような方」が到来し、御国を建てた。

4. 8～12 章：将来の御国の幻

(1) 雄羊と雄山羊の幻 (8 章)

①将来の帝国の預言

(2) 70 週の預言 (9 章)

①メシアの到来と死がいつになるかの預言が与えられた。

②イスラエルと 7 年の契約を結ぶ反キリストの到来。

③7 年の中間で契約が破棄される。

④後半の 3 年半が終わると、神の大いなる裁きが行われる。

⑤天使がダニエルにこの幻の解釈を与える。

(3) イスラエルの将来に関する預言 (10～12 章)

II. ダニエル書の目的

1. 献身の勧め

(1) 1 章に記された内容は、捕囚の地にあってもいかに生きるべきかを教えている。

①神は、いかなる状況下にあっても、ご自身の民を忘れてはいない。

②これは、捕囚民にとって励ましとなった。

(2) ダニエルとヤコブの息子のヨセフは、似ている。

①異郷において、神に忠実であった。

②高い地位に上げられた。

③神の助けによって、夢や幻を解き明かした。

2. 異邦人諸国に対する神の主権

(1) ダニ 2 章と 7 章は、世界の覇権国の変遷の預言である。

①神は、異邦人の帝国を支配しておられる。

②神の歴史のゴールは、メシア的王国である。

(2) ルカは、「異邦人の時」という言葉を使っている。

Luk 21:24 人々は剣の刃に倒れ、捕虜となってあらゆる国に連れて行かれる。異邦人の時代が完了するまで、エルサレムは異邦人に踏み荒らされる。」

①再臨のメシアが、エルサレムから世界を統治するまでは、異邦人の時が続く。

②異邦人は、イスラエルの民をどう扱うかについて注意する必要がある。

3. 契約の民に対する神の忠実さ

(1) イスラエルの民は、不従順のゆえにバビロン捕囚を経験した。

①しかし、捕囚の地にあっても、神は契約の民を守られた。

(2) ダニエル書は、メシア的王国におけるイスラエルの祝福を預言している。

①私たちは、新しい契約の民である。

②今は、神の計画に基づく過去と未来に挟まれた「今」である。

③歴史のゴールから、「今」を見ることを学ぼう。